



ロータリー：  
変化をもたらす

# 国際ロータリー第2740地区 長崎北東ロータリークラブ

## 特集号

例会：平成29年10月11日

### 古賀明・康江様ご夫妻送別会



#### 会長挨拶 辻村 栄藏

今日は例会がありましたが、古賀さんご夫婦の送別会ということで、ご多忙のところ、ご出席頂きありがとうございます。古賀先輩は大正15年10月のお生まれで、ロータリークラブご入会は、平成5年12月1日ですので、今年で24年になられます。その後、奥様の康江さんも平成23年7月6日のご入会でございます。この度、古賀さんご夫妻が、ロータリーから卒業されることになりまして、本当に名残惜しく、まだまだ教えていただきたいことが沢山ある様な気がします。古賀さんからロータリー卒業の意思をお聞きして、これからは人生の大先輩として、アドバイス等を頂きたいと思いましたが、先日、古賀さんのお宅に浜本幹事とお伺いして、名誉会員として残って頂きたい旨のお願いを、したところでありましたが、丁重に固辞をされました。古賀さんご夫妻のご都合もございますので、大変残念なことではありますが、卒業をお受けすることになりました。私共は、古賀さんご夫妻から、これまで多くのご指導、ご助言頂いたことを、今後も生かして精進してまいりたいと思います。長い間お世話になり、本当にありがとうございました。

#### 猪股 賢一郎(当時幹事)の乾杯と挨拶



一言ご挨拶を申し上げます。この度の古賀明会友、古賀康江会友の退会は、大変残念で本当に寂しい限りであります。古賀会友は、「生涯青春」という道を歩まれている方です。60歳でJA長崎信連を退職後、不動産業を営まれ、ゴルフ・ピアノ・社交ダンス・水泳・三味線と趣味も多岐に亘り私どもには到底まねが出来ません。特に、我がクラブで行った金婚式のお祝いの席でご夫婦で社交ダンスをされたお姿が記憶に鮮明に残っています。これからは、「生涯青春」を極めていかれることをお祈りします。また、先程から、私の幹事時代についてのお話がございましたが、私が「幹事職」を拝命し、当初大変不安な心境で日々過ごしていました。それを察した、古賀会長が「何があっても全て私が責任とるから、遠慮せずに君が好きなようにやりなさい！」と励まされて気が楽になり1年間全うする事ができました。このような気配りと優しさを兼ね備えた懐の深い古賀会長でした。古賀会友ご夫妻がますます健康で活躍されることと本日ご出席の会友の皆様のご多幸を祈念しまして乾杯を行いますのでご唱和の程宜しくお願い致します。「乾杯」ご唱和ありがとうございました。

#### ロータリー退会の挨拶 古賀ご夫妻



退会の挨拶をさせていただきます。本日はお忙しい所 此の様に盛大にして頂き有難う御座います。私は今月30日で91歳になります。とても幸せな人生を送って来たと思って居ります。軍隊に半年 サラリーマンを38年。定年後 不動産仲介業を30年 現在も続けております。北東ロータリーには24年在籍致しました。91年過ごして来た中で此の24年と言う歳月は 皆様とこの上もない御縁を頂き 幸せをかみしめております。このロータリー在籍中 楽しかった事も沢山ありました。地区大会の事 皆さん全員が一生懸命にご協力して頂き 成功させた事。私の会長役を猪股賢一郎幹事が一生懸命支えてくれました。お蔭で無事に終わりました。この席をかりまして 厚くお礼申し上げます。人生の生き方について良い言葉が有りましたのでここでご披露したいと思います。私が眼が視えにくいので 家内に読ませます。聞いて下さい。

#### 人生の四季を生きる

人は皆いずれかの季節を、いま生きている。地球が一公転するごとに季節の四季は巡る。何度でも巡ってくる。だが、青春、朱夏、白秋、玄冬 — 人生の四季は一回限りである。

人は皆いずれかの季節を、いま生きている。中には若くして逝き、白秋、玄冬を見ずに終わる人生もある。だが吉田松陰は、人は十歳で死んでも、その人なりの人生の四季を生きて死ぬのだ、といっている。二十九歳の若さで生涯を終えた松陰自身が、人生の四季を堪能して旅立った人なのだろう。

年齢的にいえば、青春とは三十歳くらいまでのことになるのだろうか。朱夏は三十歳から五十歳。白秋は五十歳から七十歳あたりか。玄冬はそれ以降となろう。人は生まれ、若々しく成長し、そして老い、死ぬ。厳然たる事実である。この事実を事実として受け止め、そのすべての季節をどう生きるか、各人の心の工夫が問われるところである。



## 青春

青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の様相をいうのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春というのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や、孤疑や、不安、恐怖、失望、こういうものこそあたかも長年月のごとく人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。曰く、驚異への羨慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児のごとく求めて止まぬ探究心、人生への歓喜と興味。人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。大地より、神より、人より、美と喜び、勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り、人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までもおおいつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとどすに至れば、この時にこそ人は全くに老いて、神の憐みを乞うる他はなくなる。

### 人は皆、宇宙の摂理の中で生きる

小さなスパンでは、不順もありますが、季節は確実に巡っています。春は春の役割をしっかりと果たして夏にゆずっていく。夏も、秋も、冬も同じです。それぞれの役割を精一杯果たして、次の季節に移っていくわけです。何千年、何万年と続く宇宙の摂理から、役割を果たした人は常に、次の人にバトンタッチし、冥界に移っていきます。言い換えれば、今、ここに生きている私たちは自分の役割を果たさなければならぬ、ということです。哲人も一人で人格を形成した人はいません。人は皆凡夫なり、と聖徳太子は言ったようですが、人は皆、縁の中でしか生きられない、その意味では人は皆一様に凡夫です。生きているということは、誰かに借りをつくること。生きているということは、その借りを返していくこと。誰かに借りたら、誰かに返そう。誰かにそうしてもらったように、誰かにそうしてあげよう。誰かと手をつなぐことは、その温もりを忘れないでいること。巡り合い、愛し合い、やがて別れのその時、悔いのないように今日を明日を生きよう。人は一人では生きてゆけないから、誰でも一人では歩いてゆけないから。

有難う御座いました。終わりよければ全て善しという言葉がありますが、善いご縁に感謝し、ご挨拶と致します。有難う御座いました。

大原 玉瑞会友より名誉会員として是非在籍して欲しいとのお願いがありました。



### 森 義彦会友の言葉

誠に寂しい気持ちで一杯ですが、最後に万歳三唱を致します。古賀ご夫妻が我クラブに多大なる貢献をなされた事は、会友の皆さんが充分にご承知の通りです。貢献を大きく分けると、クラブ活動の実績と人生の模範的指針にあります。実績面では古賀明さんは、会長就任と共に康江さんに入会して頂き、我クラブ初のご夫婦での会友として様々に活躍されました。会長在籍時には、岩永信昭ガバナーを輩出して、会友の協力体制が困難な状態を猪俣幹事と共に見事に纏められ、現安倍総理大臣の講演を始め、素晴らしい地区大会を成功に導かれました。又、40周年記念事業では、他のクラブが驚く程の素晴らしい周年事業を会友一丸の団結力のもと開催できました。特に、記念講演会では100枚もの入場券を購入され、そのクラブへの貢献の気持ちに会友全員が驚きと強い感動を体験することができました。人生の指針に於いては、我々会友に健康で長寿で生きる方法を体現して頂いた事にあります。それは、好奇心と実行力それに継続力です。会長当時は例会時挨拶の為にパソコンに挑戦され、私生活面ではスポーツジムにて水泳特にバタフライに挑戦されたこと聞き非常に驚きと共に凄さを感じました。又、三味線をも始められ、多種多彩な好奇心と行動力・継続力の見事な生き様に、只々素晴らしいの一言に尽きます。最後に、夫婦円満の秘訣でも我々に模範を示して頂きました。お互いの情愛と均衡の大切さを維持する事、円満の為に奥さんが(神さん)となって女性がリードすることがポイントであると納得する事が出来ました。本当に長い間、有難うございました。今後もお二人で楽しい充実した日々をお過ごし下さい。それでは、古賀ご夫妻と会友皆さんの今後のご清祥を祈念しまして、万歳！万歳！万歳！

